

施策評価シート (平成31年度の振り返り、総括)

作成日 令和2年 04月 06日

施策 No.	13	施策名	国際交流の推進
主管課名	市民生活課	電話番号	0285-83-8719
関係課名	学校教育課、市民課		

施策の対象	1) 市民(在住外国人住民を含む)								
対象指標名	単位	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	31年度見込
人口(外国人住民を含む)	人	80,929	80,698	80,590	79,422	79,542	79,414	79,324	80,200
外国人住民数(23年度までは外国人登録者数)	人	2,935	2,943	3,055	3,188	3,256	3,356	3,486	3,475

施策の意図	1) 市民が主体的に国際理解を深め合い、国際交流を進める。 2) 在住外国人が暮らしやすい環境をつくる。 3) 国際的な感覚をもった人材の育成を図る。								
-------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> ・指標は、市民意向調査、市民生活課及び真岡市国際交流協会資料で把握する。 ・姉妹都市等との交流窓口である国際交流協会の会員数をもって、交流に積極的な市民の数として捉える。 ・暮らしやすい環境をつくるという意図に対しては、外国人相談窓口に来た人数及び、相談に来た人の内、相談内容に満足した割合を指標とした。 ・国際的な感覚をもった人材の育成を図るという意図に対しては、国際交流を日頃から行っている市民の割合及び、姉妹校への派遣、受入の生徒数で捉える。 								
----------------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

成果指標名	単位	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	31年度基本計画目標値
国際交流を行っている市民の割合	%	12.4	13.8	15.2	14.1	14.9	14.0	14.0	16.0
外国人相談来訪者数	人	2,466	3,441	3,352	3,964	2,574	2,940	2,585	2,700
外国人相談窓口に来た人の内、相談内容に満足した割合	%	94.9	98.7	98.2	99.7	98.2	97.6	98.4	95.5
国際交流協会会員数	人	306	330	335	371	388	414	437	350
姉妹校に派遣した生徒数	人	98	63	110	42	103	40	109	110
姉妹校からの受入生徒数	人	25	76	14	77	16	64	20	60

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民は、国際理解と国際交流に積極的に関わる。 行政は、市民の国際理解と国際交流のきっかけをつくる。								
-------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

（1）施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）

・姉妹校交流事業は、市内の中学校で実施しており、各校間の交流のための派遣・受入件数は、平成29年度が7件、平成30年度が5件、令和元年度が7件である。

・相談窓口に来た外国人の延べ人数は、平成29年度2,574人、平成30年度2,940人、令和元年度2,585人で、令和元年度は平成30年度と比較すると減少している。相談内容の主なものは、住民票や戸籍、住居やごみ問題などの生活全般に関する相談が1位で958件、税金に関する相談が2位で947件となっている。3位が福祉・医療全般で764件であった。

・外国人相談窓口に来た人の内、相談内容の解決が図られ、満足した市民の割合はほぼ横ばいである。

・国際交流協会の会員数は、平成29年度388人、平成30年度414人、令和元年度437人で、増加傾向にあり、協会の事業回数については、平成29年度21回、平成30年度21回、令和元年度21回で、横ばいである。

（2）近隣他市との比較

・令和元年度の本市の年間相談件数は、県内1位で6,420件、2位が小山市2,744件、3位が足利市2,558件、4位が宇都宮市2,216件となっている。市庁舎内に外国人の相談員が常駐し、相談業務のほか窓口補助業務を行っているのは本市の大きな特色である。

なお、令和元年度の本市の人口に占める外国人の割合は、県内1位で4.38%、2位が小山市4.22%、3位が足利市3.38%、4位が栃木市2.81%、5位が佐野市2.39%となっている。

・中学生の海外派遣は、県内の多くの市で実施しているが、単独の中学校間での姉妹校相互交流となると本市独自といえる特色でもある。

・国際交流協会は、県内14市に設置されており、多くの市で友好都市交流、日本語教室や外国語講座、会報誌の発行などを行っているが、本市では、日本で生まれた外国籍の子供達に、母国語の読み書きを教える団体（AMAUTA：スペイン語）があり協会で支援している。また、宇都宮大学との連携により、夏休み期間中、学生が子供達に宿題を教える「HANDSプロジェクト」事業を行っている。

・在東京ブラジル総領事館の依頼により、移動領事館（県内外からブラジル人が訪れ、ビザなどの手続きを行う。）を、2010年から本市の二宮コミュニティーセンターで開催していたが、平成28年度・29年度は、ブラジル政府の意向により中止された。30年度は6月16日、31年度は4月13日に実施した。

（3）住民期待水準との比較

・国際交流を日頃から行っている市民の割合は14.0%で、前年度と同じであった。

31年度の
評価結果

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

交流事業

・アメリカ合衆国グレンドーラ市と姉妹都市交流、台湾斗六市と友好都市交流を行っている

・姉妹校交流は、アメリカ合衆国グレンドーラ市のガダード中（真岡東中）、台湾斗六市の正心高級中（真岡西中）、オーストラリア オーストラリンド市のオーストラリンド中（真岡中）、アメリカ合衆国グレンドーラ市のサンドバーグ中（中村中との相互交流が進んでいる。また、アメリカ合衆国ボルチモア市のサドブルック中（山前中）とは、派遣のみの交流が継続し、中国北京市の北京第五中分校（大内中）との交流は、中国政局により近年、頓挫している。なお、二宮地区の長沼中、久下田中、物部中は合同で海外派遣を行っている。

・グレンドーラ市とは平成10年7月に姉妹都市提携10周年記念式典、平成20年7月に20周年記念式典を開催した。平成30年7月に30周年記念式典を開催した。同年10月には、真岡市よりグレンドーラ市を親善訪問し交流を深めた。

・世界的に著名な中国の芸術家・韓美林先生との交流を深め、芸術・文化に関する相互理解の推進を図っている。

・ロータリークラブの他、民間団体や個人が国際交流を積極的に実施している。

・国際理解講座「日本とペルーのつながり」を物部小で実施している。（平成26年度・27年度各2回実施）、「ブラジル 文化の 紹介」を真岡小で実施している。（平成28年度

・平成29年度・平成30年度・令和元年度：各1回実施）

暮らしやすい環境づくり

市から国際交流協会へ補助金を交付し、国際交流事業等への支援を実施したほか、外国人と行政との相互理解を深めるため「外国籍市民と市長の懇談会」を平成22年度から開催している。令和元年度は、「防災」について、担当の危機管理係を交えての話し合いを行った。（「真岡市防災マップ2019」の配布を行い、防災に対する意識を高め、有事の際の避難所の紹介をし、また、2019年の台風19号襲来時の行動を振り返りを行った。）国際交流協会です次の事業を実施している。

・姉妹都市交流及び友好都市交流並びに中学校姉妹校交流事業への支援

・外国人相談窓口の開設

・外国人支援事業（日本語教室等への支援、行政文書多言語化事務など）

・国際交流イベントの開催（イヤー・エンド・パーティー、料理講座など）

・市民との交流のためのイベント参加（外国人住民が浴衣を着て「もおか木綿踊り」参加など）

・日本文化理解講座の開催（茶道、華道、浴衣の着付け）

・行政情報や地域情報を盛り込んだ「暮らしの便利帳」の外国語版を作成した。（ポルトガル語・スペイン語・英語・中国語）

31年度の
評価結果

3. 施策の課題認識と改革改善の方向

本市は、人口に占める外国人の割合が高く県内1位であることから、市民が外国人と接する機会は、他市町に比して必然的に多くなると考えられる。

多国籍・多文化の外国人と共生する地域づくりを推進するためには、行政主導型の地域づくりでは限界があり、民間団体や市民レベルの国際交流の推進が必要となってきた。

これにより、国際理解の輪を広げて、区・町会や地域、学校や子ども会などで国際交流事業の推進を図り、地域や団体、市民レベルによる多文化共生社会の実現を目指す。

改革改善の方向

・安全で安心な生活を目指した支援の強化として、通訳相談員の継続雇用による外国人相談窓口の充実と併せて、相談窓口の充実を図るため、令和2年度から翻訳アプリ等の導入を行う。

・国籍を越えた相互理解による不安軽減を図るため、民間団体や市民レベルでの交流事業やイベント等の開催を支援する。

・市民と協働のまちづくりを目指して、市民団体等と連携し、国際交流事業の推進を図る。具体的には、趣味や文化などの身近な分野で活動する市民や団体等と共催し、体験教室などを実施し、交流の輪を広げるとともに、国際交流事業の拡充を図る。

・多文化共生社会の実現のため、国際交流協会を支援するとともに、独立運営に向けた調査研究を進める。

・長沼中学校、久下田中学校、物部中学校の姉妹校締結に向けた取組を検討する。

・日本語学習の充実を図るため、日本語教室指導者の養成講座を支援する。

・4ヶ国語（ポルトガル語・スペイン語・英語・中国語）に翻訳した「暮らしの便利帳」を活用し、行政や地域の情報への理解を深める。

・4ヶ国語（ポルトガル語・スペイン語・英語・中国語）に翻訳した「防災マップ」を配布し、防災への意識づけを行う。

・「外国人相談用翻訳機」を外国人相談業務及び行政手続等を担当している主な部署（市民生活課、税務課、国保年金課、こども家庭課、学校教育課）で活用することにより、相談窓口の充実を図る。

31年度の
評価結果

補足事項

「1. 施策の成果水準とその背景」の欄の補足説明

相談件数

1位	真岡市	6,420件	(相談員 3名	一人当たり件数	2,140件)
2位	小山市	2,744件	(相談員 3名	一人当たり件数	915件)
3位	足利市	2,558件	(相談員 2名	一人当たり件数	1,279件)
4位	宇都宮市	2,216件	(相談員10名	一人当たり件数	222件)

「2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括」の欄の補足説明

令和元年度の国際交流協会事業実績

- ・5/19 いちご狩り(397名)
- ・6/6 「真岡市のペルー人について」高橋相談員による講義
(宇都宮大学にて:国際学部の学生50名)
- ・6/10 ブラジル文化の紹介(真岡小学校6年生対象:菊地相談員)
- ・6/23 茶道体験教室(14名) 日本文化理解講座
- ・7/10 「外国人との共生」シルバー大専校自主研究グループ(高橋相談員)
- ・8/4 華道体験教室(15名)
- ・8/24 もおか木綿ふるさと踊り参加(93名)
- ・9/5~5日間 日本語教室指導者養成講座(9名)
- ・9/1 栃木県・真岡市総合防災訓練参加
- ・9/2 ペルー料理教室(19名)料理講座
- ・11/10 もおか街歩き(18名)
- ・12/8 イヤーエンドパーティ2019参加
- ・1/28 外国籍市民と市との話し合い(11名)
- ・2/23 日本の家庭料理教室(10名)